

1. 科目名(単位数)	日本語学演習Ⅱ（文字・表記）（2単位）	3. 科目番号	EJJP3325
2. 授業担当教員	村松 喜久子		
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	まず、日本語の文字・表記の特徴について理解する。その上で漢字圏と非漢字圏で、文字・表記についてどのような違いがあるか学びを深める。さらに、日本語教育の場で文字・表記がどのように扱われているのか知見を得る。		
8. 学習目標	1. 日本語の文字・表記の特徴が理解できる。 2. 漢字圏と非漢字圏で、文字・表記についてどのような違いがあるか理解できる。 3. 日本語教育での文字・表記の指導法が理解できる。		
9. アサシメント（宿題）及びレポート課題	毎回の授業内容に対する予習と復習を課題プリントとして提出する。 課題は評価となるものなので、丁寧に書き提出を忘れないようにする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業時にプリントを配布。必ず辞書を持参すること。辞書がない場合は欠席とする。 【参考書】高見沢孟[他]『新・はじめての日本語教育1』アスク、2016。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 日本語の文字・表記の特徴に関する専門的知見を養えたか。 2. 漢字圏と非漢字圏で、文字・表記についてどのような違いがあるか理解できたか。 3. 日本語教育の場で文字・表記がどのように扱われるか理解できたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験（小テスト・期末テスト等） 総合点の30% 3 提出課題（レポート等） 総合点の40% 上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることも配慮した。		
12. 受講生へのメッセージ	普段使っている日本語を外国人に説明するために必要な知識である。外国人の視点から日本語の特徴を学び直してほしい。		
13. オフィスアワー	授業時に告知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方・課題のやり方などの説明）、日本の文字の歴史について学ぶ。	事前学習	漢字、ひらがな、カタカナの起源を調べる。
		事後学習	文字の歴史プリントをまとめて提出する。
第2回	漢字の読み方を確認する。 ①音と訓の違い	事前学習	音と訓プリント①を予習する。
		事後学習	音と訓プリント①をまとめて提出する。
第3回	漢字の読み方を確認する。 ②音と訓の組み合わせ	事前学習	音と訓プリント②を予習する。
		事後学習	音と訓プリント②をまとめて提出する。
第4回	漢字が表す音と意味を考える。 部首と音	事前学習	部首と音のプリントを予習する。
		事後学習	部首と音のプリントをまとめて提出する。
第5回	慣用句の使い方の確認。 ①身近な慣用句を調べる	事前学習	日本語の慣用句を予習する。
		事後学習	母国語の慣用句を日本語にしてまとめる。
第6回	慣用句の使い方の確認。 ②外国の慣用句と比較する	事前学習	日本語と母国語の慣用句を予習する。
		事後学習	日本の慣用句との比較をまとめて提出する。
第7回	カタカナ語の歴史について学ぶ。	事前学習	カタカナ語のプリントを予習する。
		事後学習	カタカナ語の変遷についてまとめる。
第8回	現代のカタカナ語の特徴について学ぶ。	事前学習	カタカナ語の特徴を予習する。
		事後学習	カタカナ語についてまとめて提出する。
第9回	擬音語の特徴について学ぶ。 外国語との比較1	事前学習	擬音語1を予習する。
		事後学習	擬音語一覧表を完成して提出する。
第10回	擬態語の特徴について学ぶ。 外国語との比較2	事前学習	擬音語2を予習する。
		事後学習	擬態語一覧表を完成して提出する。
第11回	生活に使う言葉と教科書の言葉の違い1 学校	事前学習	学校で使う言葉を予習する。
		事後学習	学校で使う言葉をまとめて提出する。
第12回	生活に使う言葉と教科書の言葉の違い2 パソコン	事前学習	パソコンで使う言葉を予習する。
		事後学習	パソコンで使う言葉をまとめて提出する。
第13回	生活に使う言葉と教科書の言葉の違い3 ビジネス	事前学習	ビジネス用語を予習する。
		事後学習	ビジネス用語についてまとめて提出する。
第14回	生活に使う言葉と教科書の言葉の違い4 社会	事前学習	日常生活で使う言葉を予習する。
		事後学習	日常生活の言葉についてまとめて提出する。
第15回	文字・表記指導に関する総まとめ	事前学習	今までのプリントの問題点を考える。
		事後学習	日本語の語彙について復習する。